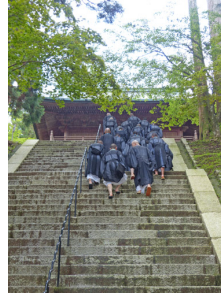


3966 **地球のかおり (日本編) : 小さな秋・ロケハン比叡山** ④

偶然、遭遇したお坊さんたち、人数も多い。体格も良く、ひ弱でない。
整列している時は、なんとも思わなかったが、根本中堂から、**文殊楼へ駆け上がる様は**、
足腰も鍛えられ、若い時代ならともかく、かなりのスピード。
まず、画像記録優先。その後、私も駆け上がったが、はるか前方に後ろ姿。
そして、ふと、歴史が、思い浮かんだ。



後白河法皇がこの世でままならないものが、思うようにならないものが、三つある。

たびたび、氾濫する鴨川の洪水。思うように出せないサイコロの目、
そして、比叡山の僧兵。戦争と平和、あざなえる縄の如し。繰り返さないでと、心から願う。



日本の古代後期から中世、近世初頭にかけて存在した僧形の武者、僧兵が思い浮かんだ。

開祖・伝教大師最澄が開山した比叡山。王城鎮護の靈山として君臨しながら、
山法師と称された数千人の僧兵を擁したが、1571年、織田信長による比叡山焼き討ちに遭い、
以後、軍事力を喪失したとある。時代背景が違うが、平和が有難い。

